

2026年3月18日(水)

## 聖書研究祈禱

赤井博夫

タイトル：『神様の休日』

賛美：新聖歌 8番 『七日の旅路』

聖書：創世記 2章1節～7節

休日はホリデーです。語源は holy(聖なる)+day(日)で、タイトルを『神様の休日』とさせていただきましたが、クリスマスは special holiday と言われています。

1節からみていきます。「こうして・・・万象が**完成**した」は1章の「天地万物の創造」の出来事です。

1章31節：『神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日』

2章4節：『これは、天と地が創造されたときの**経緯**である。神である主が、地と天を造られたときのこと。』

【**経緯**】＝織物の経(たて)糸と緯(よこ)糸。 南北の方向と東西の方向。いきさつ。**秩序**を立てて治めること。⇒1章2節 1章28節

2章2節：『神は第七日に、なさっていたわざを完成し、第七日に、なさっていたすべてのわざをやめられた。』  
⇒ 『**神様の休日**』

2章3節：『神は**第七日を祝福し、この日を聖なるもの**とされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである。』

【**神様の休日の意味・目的**】：①全被造物の祝福  
②聖別

出エジプト記20章8～10節：『安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。七日目は、あなたの神、主の安息日である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。……』

ルカによる福音書 4章16～17『それからイエスはご自分が育ったナザレに行き、いつもしているとおり**安息日に会堂に入り**、朗読しようとして立たれた。すると、預言者**イザヤの書**が手渡されたので、その巻物を開いて、…』

話は変わりますが、「○○の休日」というタイトルの映画や物語があります。

私もクリスチャンになる前は、日曜日は仕事から解放されたオフタイムでした。映画に行ったりスポーツ観戦したり、時には落語を聞きに行ったり、それが自由だと思っていましたが、ほんとのやすらぎはありませんでした。

しかし、クリスチャンになってからは、日曜日は「教会」ですから迷うことはありません。救われて43年になりますから2000回を超える礼拝に出席することになります。中でも1番よく覚えているのは、仕事で徹夜になって、朝、職場から教会にかけつけて、たまたまその日は司会にあたっていました。牧師と奏楽者と司会者の祈りには間に合いましたが、そのまま講壇に立たせていただき、任を全う出来た安ど感と喜びは忘れられません。準備が十分でなくても「あるがまま」で主の前に出させていただくことが「恵み」であることを実感いたしました。

IIコリント3:17『**主の霊のあるところに自由がある**』

ほんとうの自由は6日間の世事から解放されて、神様の前にぬかずかせていただいた時に与えられるのです。

精神科医の柏木哲夫さんは、安息日、主日礼拝をクリスチャンが守ることは『中断の恵み』だと言われていきます。神様の前に出ることは、否が応でも連続していた日常を積極的に絶つ、言葉を変えればリセットするということです。

聖書に戻ります。

2章5節：『地にはまだ、野の灌木もなく、野の草も生えていなかった。・・・』

1章11節：『神は仰せられた。「地は植物を、種のできる草や、種の入った実を結ぶ果樹を、種類ごとに地の上に芽生えさせよ。」すると、そのようになった。』

2：5と1：11の記事は矛盾というか、落差があるように思います。

しかし、次の

2章5節後半：『神である主が、地の上に雨を降らせていなかったからである。また、大地を耕す人もまだいなかった。』から、灌木、草は農作物で、人の営みがまだ始まっていなかったということです。

神様は茫漠とした形のないものを形づくられ、秩序づけられ、作品は「完成」していましたが、ダイナミズム、生きて、成長していくために、さらに神様の働きが必要であったわけです。

2章7節：『神である主は、その大地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。』

先日、カイロス3号が打ち上げられました。発射台に乗ったままであればただのモノに過ぎません。燃料が入られ、エンジンに点火すれば動き出します。

人間も神様に似せて造られましたが、『その鼻にいのちの息を吹き込まれ』なければ生きることが出来ません。『息』は神の霊です。

残念ながらカイロス3号は軌道には乗らず、その働きは出来ませんでした。

CS ルイスは「私たちの中には神の形をした穴が開いています」と言っています。そして「その穴は神だけが埋めることができる」のですと。

2章3節をもう一度ご覧ください。

『神は第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである』

祝福するということは、被造物が本来の目的に従って機能し、神の栄光を現わすようになり、それがまた人間にとって益になるということです。

すべてのわざを休んでご自身のすべての関心を被造物、特にその中心である人間に向けられたのです。

主のみこころは、創造のみわざを休み、その全存在をかけて被造物に祝福を与えようと向かっておられるご自身に対して、人もそのすべてのわざを休み、全身全霊をもって、ひたすら主を思い、主を礼拝することこそ、神のかたちに造られた者としてレスポンス（応答）することなのです。

ヘブル12：2『信仰の創始者であり、完成者であるイエス・キリストを仰ぎ見つつ走ろうではないか』

私たちのほんとうの休日は、ゴールの先にあるのです。神様は全被造物を全身全霊で祝福して下さっています。万難を排して主日を聖別して、神様に応答してまいりましょう！